

2008年11月26日

各労組・民主団体 代表者 殿

全日本金属情報機器労働組合
中央執行委員長 生熊茂実

日本IBMの執拗な「退職勧奨」への緊急抗議FAXのお願い

貴職のご奮闘に敬意を表します。また、日頃は私たちのたたかいにご支援・ご指導をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、日本IBMで新たななりふり構わぬ退職勧奨・首切りの嵐が、吹き荒れています。この乱暴な人権侵害をやめさせるために、緊急のFAX要請を集中していただける様、お願いいたします。

日本IBMが、新卒の合理化施策を相次いで打ち出し「リストラの毒味役」を任じて来たことはよく知られていることです。その一つとして従来から「ボトム・テン」という「退職勧奨」が間断なく続けられてきました。会社から見て成績が悪い「下位10%」に退職を迫り、会社から追い出す（首切り）というもので、この10%がいなくなれば、次の「ボトム・テン」が追い出しの対象となります。まさに、利益追求のためには、企業の「雇用責任」や「社会的責任」など全く顧みないという無責任さです。

ところで、現在進行中のリストラは、従来のやり方を質量ともに上回るものとなっています。10月中旬、会社は「2008 4Q Resource Action Program」という人事マニュアルを各ラインに配布して、12月19日の締め切りに向けて一斉に退職勧奨が始まりました。首切りの対象は、社員の15%、1~2千名にもおよび、そのための資金として100億円が準備されています。マニュアルには「言葉使いに注意」「週3回以上は行わない」などと記載はされていますが、逆に違法性を強く意識していることをうかがわせています。

この背景には、米国本社の強い意向があります。従来「アジア・パシフィック」という部門で管理されていた日本IBMは、「アジア・パシフィック」から切り離され本社直轄となり、収益改善を迫られる様になりました。日本IBMの業績は、前年比マイナス5%と言っても、赤字ではありません。

この様な中で、ラインそのものに「成果」で競わさせ、この中からも「ボトム・テン」ならぬ「ボトム・フィフティーン」を生み出そうとしています。ですから、従来は組合へ加入して、抗議すれば止まっていた「退職勧奨」が、今回は執拗に繰り返されているのが特徴です。こうした中で、退職勧奨・強要対象者が、出産休暇中や身体に障害をもった社員、メンタル不全で休職中の社員にもおよび状況となっています。先の「11・21全労連・東京地評争議支援総行動」での「人権侵害をやめよ」の申し入れに対し、会社は「本人意思の確認をしている」と述べ、「本人が退職しないと言っているのだから、面接はやめよ」との追求に、「情報の提供や説明がある」等と面接中止を明らかにしませんでした。

反撃も始まっています。ここ1ヵ月の間に、労働相談やホームページへの書き込みは後を絶たず、30名を超える社員がJMIUに加入をしました。厚生労働省への申し入れや記者会見など世論を喚起するたたかいも準備を進めています。こうした大企業の横暴と人権侵害をやめさせるためには、職場の毅然としたたたかいと世論による社会的評価が不可欠です。

つきましては、別紙案文日本IBMに対する抗議のFAXを集中していただきますよう要請します。

記

抗議先：日本アイ・ビー・エム株式会社
代表取締役社長執行役員兼会長 大歳卓麻 殿
FAX 03-5563-4870

抗議・要請書

日本アイ・ビー・エム株式会社
代表取締役社長執行役員 兼 会長
大 歳 卓 麻 殿

貴社は、「2008 4Q Resource Action Program」にもとづく、「退職勧奨」面接を直ちにやめ、社員の雇用を保障して、大企業としての社会的責任を果たせ ！

以上

2008年 月 日

住 所 _____

団体名 _____

代表者 _____